

# 請 願 文 書 表

令和4年12月1日配付

総務文教常任委員会付託

学校等における感染防止対策の徹底と  
児童が通う施設における対策強化を求める請願

- 1 受理番号 第3号
- 2 受理年月日 令和4年11月25日
- 3 請願者 兵庫県淡路市 [REDACTED]
- 4 紹介議員 西村 秀一

## 5 請願の趣旨及び理由

### 【趣旨】

淡路市内の小中学校をはじめ、児童が通う施設でマスク着用の見直しと共に、換気システムを導入し、早急に児童生徒が活動する室内を安全な環境に整えることが必要と市に認識してもらうため

### 【請願理由】

令和4年10月3日より開かれている臨時国会において、岸田総理をはじめとして様々な国会議員の方の「マスク着用見直し」の声が増えてきました。中には、子どもが可哀想だからマスクを外そうという方もおられました。私自身もコロナ禍の長期化による子ども達への影響を懸念しているところであります。しかし、更なる安心安全な環境整備なしにマスクを外させてあげようとするのは、子どもを守る大人として、あるべき姿なのでしょうか。

第7波では、国内においても子ども達の命が奪われる事態が発生しました。発熱外来の電話が繋がらず搬送困難事例も多発し、熱性痙攣の子ども達の搬送も困難をきたしたとの報道もありました。この冬においては、インフルエンザとのダブル流行が予想され、医療を受けられない子どもが更に増える危険性が懸念されます。

子ども達は学校が大好きです。感染が怖くても、友達に会いたいとの理由で登校している子ども達もたくさんいます。マスクの着用による感染対策を図ることで登校できる子ども達もいるのです。

アメリカやオランダ、オーストリア等では、子ども達を守るために国が多額の補助金を投入し、空気清浄機等、学校内の換気対策に着手しました。対しまして、日本の学校では窓を開けての換気にとどまっています。換気状況を評価する二酸化炭素濃度測定器(CO2センサー・モニター)さえも設置されていない学校も多く、十分な換気対策を図っているとは言えない状況です。新型コロナウイルス感染症対策分科会も「学校(園を含む)については、気候等に応じて補完的な措置も検討」と令和4年7月14日付の換気の提言書に示しています。さらに文部科学省も令和4年10月19日に新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行も見据えた今後の感染対策について、教育委員会等に事務連絡を発出しており、換気による感染対策には高機能換気設備の導入を積極的に検討せよと求めています。

淡路市においては、コロナ禍前の設置も含め、多くの小中学校、保育所において空気清浄機が設置されています。しかしながら、二酸化炭素濃度測定器(CO2センサー・モニター)の導入状況を確認しますと、小学校では1校1台、中学校では3校16台、学童保育、

保育所では導入されているところはありません。

冷たい雨や雪が降る日に、窓際で震える子どもの姿を想像してください。可哀そうだからとマスクを取り上げるのではなく、マスクをつけたくない子ども、マスクをつけたい子ども、どの子どもに対しても平等に、どの季節でも安定的に守れるような環境を整えてください。

よって、淡路市において新型コロナウイルスに関連した感染症対策をより有効なものとするため、次の事項について具体的な対策が取られるよう働きかけていただく事をお願いいたします。